

# 自然と生き物の色々な話

## ～アベサンショウウオの話～

みな 皆さんは「アベサンショウウオ」という生き物を知っていますか？

アベサンショウウオとは京都、兵庫、福井、石川の1府3県に生息するサンショウウオの1種で、絶滅危惧種に指定されています。

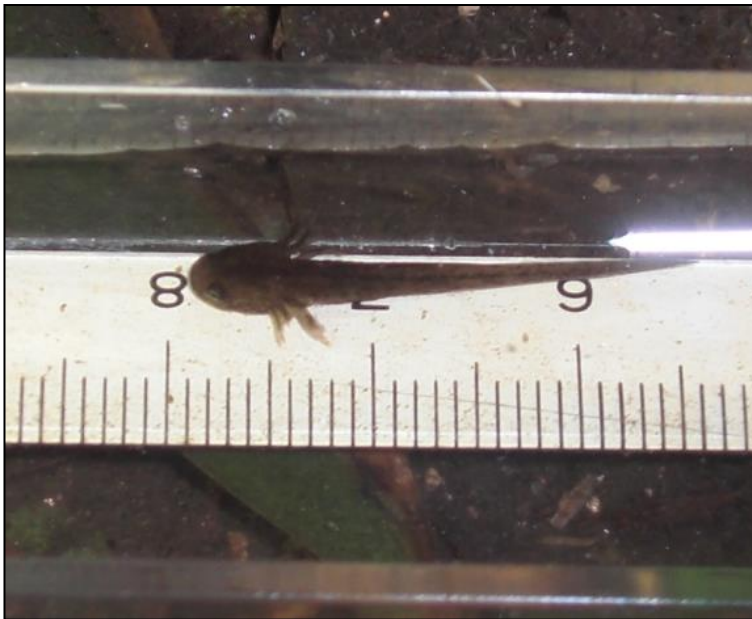
兵庫県近郊における希少な生き物としては、コウノトリがよく知られていますが、実はアベサンショウウオもコウノトリと同じぐらい保護が必要な生き物です。



### ←大人のアベサンショウウオ

体長9cm ぐらいで、手のひらに乗るくらいの大きさです。

クモやミミズを主に食べて、卵を産む時期以外は、倒木の下や貯まった落ち葉の下など湿った暗い場所にすみ、じっとしていることが多いです。



### ←子どものアベサンショウウオ

足がまだ生えていない時で、体長は2.5cm ぐらい。

きれいな冷たいわき水が流れる沢や池にすみ、小さなミミズやミジンコの仲間をエサにして、水の中で育ちます。

頭の後ろにあるものはエラで、子どもの間はエラで呼吸をします。

大人になるとエラはなくなって肺と皮膚での呼吸に切り替わり、陸上で生活します。



# サンショウウオってどんな生き物?

## 【両生類の3つのグループと特徴】

カエル	イモリ、サンショウウオ	アシナシイモリ
手足があり、大人になると尾がなくなる。子どものころはオタマジャクシで、エラ呼吸をする。	手足があり、大人も尾がある。子どものころはオタマジャクシに似ているが、カエルと違いエラが外に出っぱっている。	手足がなく、ミミズやヘビのような体。東南アジアやインド、アフリカで見られ、日本には野生のものはいない。
 モリアオカエル	 オオサンショウウオ	 アシナシイモリ

サンショウウオは、イモリなどと同じ、両生類の尾のあるグループの生き物です。特に有名な種としては、世界最大の両性類であるオオサンショウウオや、ウーパールーパーなどがいます。

イモリとサンショウウオは見分けが付きにくいこともありますが、日本ではお腹にカラフルな色がついてれば、イモリとって間違いないです。

## アベサンショウウオの希少性

アベサンショウウオは、絶滅危惧IA類という、ごく近い将来に野生では絶滅してしまうおそれをもっとも高いグループの生き物とされています。「野生では絶滅」とは、水族館や動物園以外では世界中のどこを探しても見られなくなるということです。

### 【アベサンショウウオが減っている主な理由】

- ・すみよい環境が失われたこと
- ・人がつかまえたり殺したりすること
- ・他の生き物によって食べられること

このような貴重な生き物であるアベサンショウウオの数は、左のような理由で減っています。

両生類の「両生」は、「水中でも、陸上でも生きることができる」と考えがちですが、実際は「生きていくためには水中と陸上の両方の環境が必要」という意味です。そのため、水中の

環境がとても良くて、陸の環境が悪ければ両性類はいなくなってしまうし、その逆も同じです。

このように、アベサンショウウオはとても希少な生き物です。もし見かけたら、突っついたり触ったりせずに、そっと観察をしてくださいね。

